

6月号 No.10

昭和27年6月15日

東京都中野区新井町543

織本外科病院内

親和会機度紙

★生きた患者の対策を

児島美都子

(3)

半年間の回顧

加藤 龜吉

(3)

手術を語る(第8回) 織本 正慶

(4)

スケッチ・スック

酒井 正

(2)

はくちもごめんた

しま・ひろし

(15)

自己と自然

増田 春美

(11)

夫婦と結核

小沢 久八

(7)

一筆 啓上(田島氏の参) 長尾 千春

(15)

随 想

秋山 寛

(5)

山羊と私

児島 俊弘

(12)

結核種との戦い

山口 富子

(8)

知らぬが仏の不養生

鈴木 輝男

(9)

詩 一 私は生きて行く

久納 千枝子

(13)

一 自己をみつめて

増田 春美

(13)

気胸部の定期的検査

神津 克己

(6)

に就いて

気胸のみなさまへ

(7)

みんなの医局会試

医療相談

(10)

会見消息

会見消息

(16)

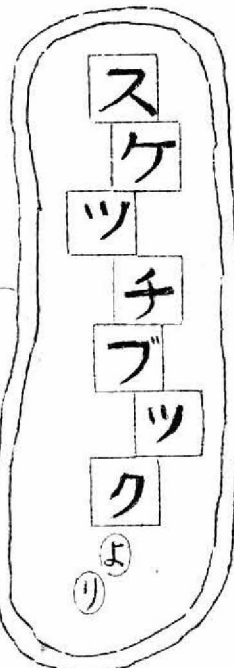
雨垂れの歌

雨垂れは雨垂れ石を叩いている
 日がな一日、半端なき生立にて
 雨は降りにやが屋根に落ち
 屋根の瓦を流れて雨垂れとなる
 私は、考える
 あのやわらかい水の滴が
 方の園い石に
 穴をあけようとしているのだろうか
 雨垂れは感ずたゆまず
 石を叩いている
 私の心には閑りなく
 雨垂れは石を打つ
 石は雨垂れを弾ねかえす
 自然は何のためか
 かくも勤勉なのだろうか
 六月の清明るい午後のひととき
 私は軒端の雨垂れの音を聴きつづ
 ただ一つのことである

亜井敏治詩集「果実」より

ながさをちるはる

長い道路をきれいに結ば、
 通国通民の汚名を洗てりや
 突然家来も板につきま
 ちまよとあなととあど返り返える
 晴れ、昭和の大通り
 ルムは踊つてスイートホーム



(井上病院内)

こまじまみこ

こまじまみこ
 かえスケユーアよろしく
 まじのなびシネスできばきと
 んんなに信賴したわねる
 ツン、シマンがらなほよいお人
 こん彼の活躍望みたい

おりもたまさしよ

おりの如きやさしさ
 理知にひらめく端緒をもつて
 モダニティを身につけた
 特殊技術のヒューマニスト
 またく若い情熱もえて
 さつそう、オートバイの人となり
 酔つて、踊つて、胸襟ひらく
 通愛する良きお方

ながさをのぶき

長い旅路はよいよう／＼と
 学生気質がまにとれず
 ちつにすましているけれど
 敬のは、時計も卒業で
 ぶつさう、言うに言いきるあたり
 愉快な男だ、たのもし、
 モーブワイフのその「こま」

作 正 井 遠 形 成

半年間の回顧

言 頭 卷

会長 加藤 龜 吉

今年の一月十五日、親和会
結成以来、半年の月日が過ぎ
んとするとき、私は、会の活
動状況に回顧してみたいと思
います。

先づ、二月会員の要望であ
つた診費の軽減は、病院の
理解のもとに特価を定められ
ました。また三月より会員の
懇談会も開催することになり

毎月実施しようありますが、
その度毎に不手際で終止致し
落様にまだ迷惑をお掛けし
居りましたが、その原因を除
き今後は期待に添ふことがで
きると思ひます。

機関誌「新路」も二月から
月一回づつ、定期的に発行さ
れ、いろいろ批判されながつ
も読者に内容が充実しつつあ

ることは喜ばしいことだと思
います。これも会の皆様の絶
大なる協力と声援によるもの
であります。なお、今後は

懇談会と同時に文化的催しも
やりたいと思つておりますが
幸いにして、音楽家の渡辺氏
(成彩)や詩人の大島氏(成彩)

等の御指導により、発展して
ゆくものと思ひます。
また、アフターケアの設置
や関係諸団体との連携等、未

解決の課題が多々残つており
ますが、これも、会員みんな
の力で、おひひ解決される
ものと思ひます。

結核死は千歳式典が行われ
た。これは従来日本の結核死

は幸は他のどの病気の死亡率
よりも多かったのが二位に下
つた。昭和十四年と二十六年
を比べてみると人口万対の死
亡率が十四年には二十一であ

つたのが二十六年には十一に
半減しているところから見て
いる。結構なことである。

ところが一歩小
りかえつて結核患
者数は果して減つ

ていたのだろうか。
新南の報告によ
ると昭和十三年
には推定百五十万
人であつた患者が

まかりを患てる子供が一人か
二人あつて社会的にも働きざ

かり。人たちが何と多く病床に
たおれていることだろう。結
核患者はむしろ減っている。

残念ながら政府の結核対策
は、はなはだお粗末だと云わ
ざるを得ない。予算面から及

てる国軍備が總予算の二六に
パーセントなのに結核対策費
は一パーセント(車軍備に

とくらべると二六七分の一)
というような現状である。予
算のこのような圧縮から来る

政策は近々保護患者の打ち切り
や一給負担の増大、内容のこ
もなわなない結核予防法、不完

全完全看護の實施、附添料
金と附添制度の改悪、診察制
限、国立療養所の地方移譲、

都委託患者の打ち切りなど枚挙
にいとまがないほど進んでいる。
さらに一般的生活條件の

悪さが結核誘発の原因となつ
ていることも及のがせぬいし、
アフターケア施設など全然かえ

りたつていないのに、折角、
軽快した患者が再発するよう
なことも多いのである。結核死と率

親和会日誌

●五月十一日 幹事会開催

近の諸問題議決定

一 定期診察には、レポート

コンサートをやること

二 民診連、保健所等の患者組

織と橋のつながりを作る事

三、六月に總會を南へ

四、近日中に常任を決めること

●五月十六日(オニ金曜日)

定期診察、東進出席者面談会

●五月二十四日、總會準備会

開催、六月二十日午前中に定期

診察、王実庭、午後總會も開催す

る予定

手術を語る

第 2 部

生の記録より

(副院長) 織 本 正 慶

U君の肺切除



U君の断層にうつし出された空洞は成形術によつてつぶされ得るべき

そのものであつた

古い空洞ではあつたがこの位の空洞をつぶす治癒経験を私は豊富にもつていた、そうして予後に対する可なり樂觀のもとに手術がなされた。

然し術後一ヶ月位から黄痰が出始めた、それからU君の苦しみが始つた、彼はガツキで証明される痰つ

汗の中を見て、

「痰つぼの中のカタン、カタン」

と嘔吐していた、彼は私にいろいろの手紙をくれた、黄痰は彼にとつて、はたを意味していた、彼はじつと幽のへるのを待った。

彼は自分でバス吸入を続けた、然し痰は常にガツキ、ニ号から四号まであつた。

U君は自分の運命の打開を安静に求めることに望を捨てた、次いで化学療法にも希望を失つた、次には成形術補成だつた、だが彼はそれが恐ろしかった、それは手術が恐ろしかったのでは無い、「今度こそ治る」と

という輝かしい希望が又覆えられた時のことを考えると恐ろしかったのだ、彼の希望は常に輝かしく、彼の失望は常に奈落の底だつた、U君は私とは凡そかけはなれた感傷的な口マンチストだつたからだ、U君は

生きる希望のためには、手術の痛みなどはまるで問題にならなかつた、彼は生きる希望の前には勇敢だつた、だが希望を裏切られることは自分の

神経にもう二度と堪えられたいと思つたのだ。

彼は結局、肺切除を望んだ、彼が私に云つた時には、私は三例の肺切除を終えた時だつた、U君は

「先生、肺切除をやつて下さいね、僕は四例目だけだ」と笑つた。

U君の手術は遅れてその間に私は四人五人と肺切除を重ねて死に例は一人もいなくなつた、彼は私の手術に対しては絶体に信頼していた、私は少数例の経験者にすぎなかつたが、

U君は手術中に痛がつた、痛いと言つただけで色々々なことを口走つた、私は大声で「静かにしろ」といふ、そんなにあはれると手術を止めちゃうから」といふた、すると、

「先生、そんなに云わないで下さい、我慢しますから」と、それは畏服するような響きをもつていた、

私は隣座に悪いことを云つたと思つた、彼にとつて手術を中止すること、痛み以上の苦痛だつたのだ、私は気合をかける意味で無反省的に

云つた言葉だつたが、やはり彼は厭煩するのには一番響くことを無意識的に知つていたかつたので、U君に云つてはこんな非人間的な惨酷な言葉はなかつた筈だ、



私は今でも耻じている、そうしてU君に謝罪したいと思つてゐる。

だが、U君は手術後一週回復(一)オニ回復五週回復(一)であり大へん元氣になつた、U君が良くなつて本当によかつた。

今でこそU君の性格をこう語るが私はその時まで、U君の性格を理解していなかつたし、本質的にも私の手術は「人間的」でなかつたのである。

手術は、かゝるべきではなかつた、私の手術の修業に於ては、U君の肺切除は一つの段階をつくつた。



随想

(織本病院医師)

秋 山 寛



誰かの言葉
に「青年時代
というものは
自己主張と自
己卑下の感情
が波のうねり

のようくりかえされるものだ」と

書かれたのを讀んだことがあつた

私などは早くから自己卑下というよ

りむしろ自下謙惠の波の連続だつた

今でも全くくだらない自分を意識し

てたにきつけないよう自氣持になる

時があるのであるが、学部四年の時

こんなことがあつた、当時、私は

早稲田の学生某と二人で大森の下宿

にいたのだが、たのまれて産科進學を

希望する新制高校を出たばかりの若

者を同室させたことがある、彼は一

日でそれとわかるピリコだつた、体

は小さくよくいふきをするのだが

実に朝がな、ぐつたぐつたのいふ

発願をして、はいつて来たものであ

る、はじめのうちは、その奥に話さ

ふれぬように氣を配つていたのだ

が彼のあまりにも自然な明朗さと

もお一つは医科進學の彼がうぬれ

先輩である自分の知識をひれきた

かつたばかりに「君はいくつの時

小児麻痺にかかつたの、筋のい痛が

あるのが普通だけれど」といいなが

う争もあるうにその実行する足の小

くらはきにさばつてゐたのだ、言つ

てしまつてからはつとしたのだが彼

は「七つの時です、これでもずい分

よく歩けるようになったのですよ」

と笑顔を一つつて、何のわけかマリ

もぬい感えだつた、そして私はその

感、短く曲つた体重をささえるのに

せいで一ぱいの片足を引づつて長い人

生を生きて行かなければならぬ彼

に対する同情よりも、物心ついてか

う何年もの間悩まぬいて来たであら

う彼の病氣を程にしてまで優越を感

じようとした自分のさたない心に何

するべきか、その人達も又病に打勝つた事実を、「これでもずい分よく歩けるようになったのですよ」とかつて大森の下宿で細い足を誇らかにしめした彼のように背の創痕を一つの誇としていたなきたいと思う、斗病こそ、じ及ではあるが何物にも勝る大きな事業であると思つて、そして遂に斗いがつた時、あの背中の創痕こそまさに尊い血潮を流して得た勝利の印であると思つ、そして私は医師として微力ながらその一助となり得ればと思つてゐる。

胸成術にしろ肺摘にしろ必ず背に大きな創痕がのこる、そして現在のようには外科手術の普及した時代では風呂屋や海岸等でその創痕を荷なつた人を必ず見かけることがあると思つ、その時私は、少くとも私は「彼の短い片足と同様に、針に背おつたその創痕の中にその人の長い苦悩とそれに打勝つた努力のあとを、そして銭湯に入り、海水浴のできる迄になつた事実を心から洗滌し優越を表したい氣持になつて思つ、そして、

不如帰現代版

「武男さん、私の病氣は治るかしら」「治つずにどうする、浪さん、きつと治るよ」

「でも、ハイドラジッドも私のような面劇巨木空洞には効かないさうよ、私はやつぱり駄目よ」

「そんなことあるもんか、浪さんたつて手術や新薬で治る日が必ず来るよ、その日まで強く生き抜くんだ、浪さんか」

氣胸部の

定期的検査について

(國立千葉新清病院) 神 津 克 己

一人一人の方々に説明するかわりに、「新路」の紙面をかりて、氣胸部では諸検査をこの位の簡略さにおいて実施しようとしているが、又それ等のもの意味にも、少しくふれて記載してみよう。

大体、私は一人の医師が一日に十五人、それも勿論毎日ではなく、週二、三日位、結核の内科的指導と治療を外来で行つておける制度を望んでいます。ところがそんな醫務は診察をしたら現在の健康保険の收入では医業が成り立ちません。勢い大ぜいの患者さんを集めようとする努力が払われます。一方日本には結核の患者さんが多いので健康保険で診察してくれる評判のよい施設には、まだ大ぜい集まります。

そこで医師は本意ではないが、一人一人の患者さんで丁寧に診察し

指導する時間的余裕が持てません。このことは医師にとつても、患者さんにとつても不幸なことです。

私は、これで特別な目を設けて、氣胸部の方に集つて高い結核の一般的なことをお話ししたり、質問に答へたり、更に進んで個々の人と面談し、その病状を充分お話ししたり、諸注意を詳しく処方する――これは非常に時間のかかることですが――ことが出来れば良いと以前から考えてはいたのですが、今だにこの方法を行うに至つてはいない実情を誠に申し譯なく感じています。

この「新路」がこういう隘路に新しく進出してくれる機関誌となるならば、ここにも文字通り新路を名づけるにふさわしい使命を一つ持つてゐると思ひます。

X

X

レントゲン

撮影は原則として三ヶ月に一回、透視は一ヶ月一回

普通は撮影も透視も石の回数で充分です。ただし特別その必要を認めた場合は勿論この回数にこだわることばなく実施します。

赤 斑

月に一回、これは能率をよくするため、大体白をきめて行います。その日にむれた方は看護婦に申し出てやつて貰つて下さい。

赤斑の値だけを見て、病勢を判断出来ませんから、多いかりと悲觀せし、少いからとけつて安心は出来ません。その他病状と総合して判断してはじめて意味のあるものです。

からその点誤解ないやうに、平日も今迄八錠だったのが今月十二錠になったと心配してゐた方がありますが、こんど差は問題となりません。これから気温が高くなる冬期に比し、高熱はかなり増加しますから、このことも念頭に置いて下さい。

検査

これも月一回実施します。土曜日でも白昼日でもお持ち下さい。白昼は午後三時迄に構つて来て下さるやうにと係がらうがです。定例的には月一回ですが必要あるときは二回でも三回でも実施して一向差支えありません。

検査は、病状が良くなつて来た場合、最終的決定の判断として最も大切なもので、場合によつてはレントゲン写真に先行することもしばしばありますから、この検査は勵行して下さい。

体 重

体重の測定も少くとも月一回は必ずに行いたいものです。結核の改善は体力にありますから肥えることは、大へんよいことです。スタイルが悪くなることなど気にしないで、太くふとつて下さい。それには動き過ぎや過労は禁物です。

定期的検査の四項目の説明はこれで終ります。若し貴方も私の方が前りましたら進んで申し出て毎月欠かすこと受けられるやうにお願ひします。

夫婦の結核

1950年
結核研究所調査

- (一) 夫婦共結核の場合、配偶者の内の一方が結核である全国五二・九組の夫婦のうち、夫婦共結核である割合は八七・〇%であった。
- (二) 結婚当時のツ反症とレントゲン所見が分つてゐるものは、二三八名に當る一三六六組であつた。
- (三) 夫が妻が結核であるとしてその配偶者のツ反症が結婚前に陽性になつた人は六六九名で四・八%。
- (四) その六六九名のうち五九七名に當る九八・二%は現在、レントゲン検査で健康。
- (五) 配偶者のツ反症が結婚前に陰性になつた人は六九七名で五・二%。
- (六) その六九七名のうち二七九名に

當る四〇%は結婚後に陽転し、陽転者の二二・二%が染病。

(七) 結局、結婚前のツ反症陽転者のうちの結婚後の染病は八九%である。

(八) 結婚前のツ反症陰性者からの結婚後の染病は八九%である。

(九) 夫婦のように密接な人間関係において、再感染染病と確認される例は極めて少ない。

(十) 結核の感染をうけて、染病せずにすんだ人は、實際問題として、外部からの再感染に大抵、打ちかてるだけ強力な免疫を持つといつてよい。

◇ この資料は厚生省結核予防課の市村事務官の特別の御厚意によつた、ここに紙上より謝意をのべたい。

(気胸 小浜久八提供)

「人生は一箱のマツケに似てゐる。重大に振うのは馬鹿々々しい、重大に振わなければ、危殆である。」

小浜久八

気胸患者の皆様へ

先日皆様の御賛同を得ましたサークル設立の件は、神津福田両先生及び看護さんにも賛助会員として加入していただきサークル会員相互の疎通親睦と医療事情の改善向上を積極的に推進するため「織本外科病院気胸部サークル」(仮称)として発足することになりました。皆様御協力と御活用を希望致します。

一 事務執行委員四名 (土曜、日曜より各二名宛、一ヶ月交替制)

一 機関誌 (織本外科病院、親睦会発行の「新路」を共同使用すること)

一 会費 (一ヶ月、二十四円以上)

發起人 小浜久八、戸髭典子、他有志

手術体験記

結核腫との戦い

(肺区切除患者)

関口 富子

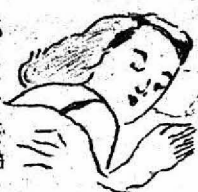
「結核腫ですわ」

「保健所では浸注と云うのですが」

「いや、これは写真のうっり具合から見るにどうしても結核腫です」

「そうですとどうしたらよろしいのでしょうか」

「取つてしまふのが一番よいのですが、あなた御はまだ若いと云ふ気もあるから今すぐでなくもつと悪くなつてからでも遅くありませんが、いづれは取るようになりますわね」



「このまま、自然に治るようなことはいけませんわ」

「一口に取るというもののいざとなればどんなに痛いことだろう、先生は今すぐでなくともいいと云われた」

かつこのままにしておくことがしう?

そのうちに治るかも知れない、いや

そうではない、先へ行つて悪くなつ

たつどうしよう、いづれは取るよう

になる、こんな事が頭の中を行つた

り未だりしているが……、そうた

私には子供がいるのだ、一日も早く

動けるようにならなくてはいいけない

のだ、そうするには今すぐ手術する

のが早道なのだ、痛いのはその時だ

け、こうしていればいつになつたら

動けるようになれるかわからない、

肺区切除の手術をすることに決

心して一月十三日に入院二月一日午

後手術と決まつた、いよいよその日

が来た、夜中時分から降り出した雪

が足おも降り続いてゐる、湯屋万端

しとのい四時に手術室に入り手術台

に横になる、先生は手を洗いなばり

「痛くなくしてあげますわ」と云つ

た、「どうぞお願い致します、私室
気配無しですわね」やがて一本麻
薬がうたれる、うしろで境野さんが
消毒しながら「痛かつたら痛い、苦

しかつたら苦しいつて云うのよ」と

云つた「はい、」白布が掛けら

れる、寺山さんが血圧を計る、私は

左手で寺山さんの手をしつかりにぎ

つた、先生がうしろへ廻る、局部麻

酔したので、そのうち背が重くなつ

て来た、「もう切り始めたのかしら」

暫くメス音がけられた時は身体がし

びれるような変な気持である、骨を

かりかりやつていたが、いつ折れた

が知らなかつた、いつのまにやらい

い気持になつて眠つてしまつたつし

いが……いよいと目を睨いてみる

と左手の肘の所が血で汚れている

今村先生がてんてきこしていられた

そのうち背も軽くなつて来た、終つ

たらしい、輸送車に移される時看護

婦さんの時計を見たら七時二の分頃

であつた、「どうもありがとうございます

いました、」そんな大きな声を

「お出しなはだゆよ」叱られてしまつ
た左手でテンテヤの管をもつて病室
へ帰つて来た、看護婦さんが血圧を
計りに来るたびに「痛い、」苦しい

の、と願ひて下

さるが痛くも苦し

くもなかつた、

大変経過が良い

とのこと先生も喜

んでいらつしやるこの事、榮するよ

りうちは易しとはこのことだと思ひ

手術をした事を嬉しく思ひながら

手術前の取越苦労が思い出されおか

しくなつてくる、

いく、経過がよくてもまだ通院はで

きない、今日は主人の命日、病床の

中でお経を唱へながら主人の冥福を

祈る、そして私も早く動けるように

と、



記 驗 体 病 斗

知らぬが佛の不攝生

鈴木輝 田原力



床の中から頭を窓外に向
けると、春の陽光の下に、
が二羽、隣家の屋
根で舞しそくに飛
び廻っているのが
目に入った。思わ
ず自分も大自然の
中に飛び出したくなる。而し飛び出
したいけれどそれをしてはならぬ。い
体だから廻家だけは一層強くなる。
そして頭の中には去年の春旅行をし
た時の風景がしきりに懐しく思い
起された。

私は去年の五月、勤め先の同僚と
信州の浅香山麓を歩き廻った。或峠
の上で落し残った真白い雪を足につ
いた時は思わず子供の様に小跳りして
駆けよつた。もうとつとに暖くなつ
ている東京から来た我々にとつては
五月も春ばにはつて雪を纏りしわ。
冷く心地良い感触を味わうのが全く珍し

い経験の一つだったのである。目の
前には雄大な浅香山が真白い噴煙を
澄み渡つた青空にたなびかせていた。
思わず人生の希望に胸を小さくまじ
て深呼吸をした。

しかし人生に於ては、シヨツクを
与える様な出来事は大抵予測されず
にやつて来る。その時、希望にふく
れた胸は何時の間にかその希望をく
だ、病原体に変えられる事となつたの
だ。

旅行から帰つてからは忙しい仕事
が出来上り、毎晩遅く家に帰り、ぐ
つたりとする事が多かった。眠にな
ることも相変らずに、若さにも小
せ、残業を廻ける事が多かった。
そのうちに夜中に時々胸がしくし
く痛くなる様な事がある。氣になる
ので医者にみてもらつた。検査で
肋周神経痛だろうと云われ、そのま
ま過ぎました。全く、知らぬ

が佛、何と云ふか、こういう事を云うの
であらう。今にして思へは軽い肋膜
炎を併発していたのに違ひない。

且の後今年に入つて小じした動機
で水道橋の結核予防会に行き、肺に
カゲがあるのを発見。定石通りに
がツクリしたがあとの後悔先にた
すといつた所、そして結核病院を紹
介された。

これが私の病変発見前の昨年の不
攝生である。今年は去年とまるで生
活態度を変えなければならぬので、姐の
のうちは精神的にも肉体的にも食
生活にいつもタイムミシグが合わない
つた。寒いところは避けたが、地中
法をやつていると気分がよいので、
安静度以上の歩行もやつてしまつた。
しかし此の頃は静寂の中に居るだけ
れど、しみみとした寒さを感じて
来る様にはなつて病変の事が始んど言
にならぬ。

戦時中に学生生活をしていて時、
教壇の時周りがあつて、軍隊の真
似をさせられたけれど、その時、不
動の姿勢は教壇基本の姿勢なり。と

と教えられ、氣を付けの命令がが
ると足の先から頭までつべんまで硬
直させて動かしていいた。あの不動
の姿勢を基本とする教壇は結局、日
本を不幸にしてしまつた。けれど今
はこれに開通して、安静は斗病基本
の態度なり。という語が想起されて
来た。しかし今度こそは本当に自分
の為にも他人の為にもなる安静だ。
構にはる不動の姿勢だから寒くない
し、教官の注視もないから氣も楽だ。
勝手に夢を画きながら、元氣な時に
眠れない人生をしみじみとしが及しめ
てみたいと思ふ。

アンケート 出題？

1. あなたの好きな食物は何ですか
2. 平和を守るには、どうすれば良いと思ひますが、

6月25日迄に親和会

回答、ハガキまたは同封紙使用の事

医療相談

回答者 織本正慶

問一 三十五才の男 最近突然

発熱、咳は二ヶ月位熱が
なく喀痰量も大して多くありません
レントゲン撮影の結果、右に直経四
センチ位の空洞があり、反対側は全
体に浸潤がひろがっていると言われ
ました。手術をすすめられているの
ですがある医者は化学療法をしばらく
やめてみて左の病巣が吸収される
のをまつてから右の手術をやつたり
良いでしょうか。ある医師からは
すぐに手術をした方が良いと言わ
れました。どちらが良いでしょうか

(長野県 K生)

答

レントゲン写真を見ていない
のでよく分かりませんが手術手
術をしないといある医師が言ってい
る以上、反対側の浸潤がそれほど広
範なものであるにせよ、病時
も考えることで手術して反対側
が悪化するといふ例は少ない法を採

用してやる最近の手術ではほとんど
ないといつてよろしい。それよりも
もつと考えなくてはならないことは
巨大空洞の危険性です。巨大空洞を
自にやすきに喀血とシチューブを予想
しなければならぬからやはり巨大
空洞をつぶしてゆくことが先血問題
でしょう。巨大空洞をそのままにし
ておいて化学療法をやつても反対側
の浸潤が吸収されることはなかなか
むづかしいと思ひます。要するに化
学療法をやらずに手術に入つてゆく
ことが良いでしょう

問二

二十八才の女、左上葉に
病巣があると言われまし
たが検査の結果は培養でたまたまコ
ロニ菌に感染するだけなので手術した
方が良いかどうか、まよつておりま
す。手術後の反に微量細菌は術后
でもでるのか手術をしなくても

良いのではないかと云われました。
どうしたら良いでしょうか

(足立区 A子)

答

感染されてない肺から出てい
る微量細菌は一応問題にする
必要があります。成形をするのはち
よつと勿体ないと思つてしようがそ
ういふ結果は何つかの形で感染した
方が今後の危険性が少ないということ
は、はつきりいえません。何故かとい
ふとそういう病巣は偶然が非常に高
率に起り得るからです。けれどもよ
く観察してくれる主治医がいるなら
ば経過を見て、適当な時期に感染す
法を行つてゆくことが良いのではな
いかと思ひます

私の粉の私は私の健康の上にあるの
のだ、身体のためになるものを皆
「善」と呼ばなければならぬ。
そして回復に役立つものは
「善」として、すべて、しりぞけな
ければならぬ。

「アンドレ・ジイド

動 異 争 人

● 五月から須賀川市 中井
至 看護婦 斎藤小江

小林淑乃の二君が勤務しは
じめました。どうぞ、よろ
しく。

● 中井君は明治薬専を今
養護科で成績で卒業した方であるが
仕事を待つて下さるばかりにおい
検査やレントゲンの仕事もやつて下
さる旨です。小だん溫和しいのです
が飲むと断然愉快になります。

○ 斎藤さんは原さん(看護婦)の
幼なじみで原さんの言葉を借りると
ウブで内気で純情の日本人のよう
な人だそうである。いまのところまだニッ
クチームは、たてまつていませ
ん。

● 小林淑乃さんは知る人ぞ知る細
本病院の古来看護婦の一人であつて
は堂々たる体格で、看護婦さんと二人さ
り看護の仕事にまわしていま
した結婚のため一時やめました。が元
の古巣が忘れられずに戻つて来たとい
うところ。但し御主人との仲は至
極円満ですから心配無用です。

自己と自然

(島田) 増田 春美

愈々青春の時節とはつて自然はど
こまでもあざやかな色彩に輝き出
されてくる。恰も青年期の生命の目
差を放散するかのような。この天地
に私はただ、やるせない現実の底
の深いこの互切に感じさせる今日此
頃と化した。

一人づつに横たわり、酒会の翌
夜より、お返を眠るばかりを去る。
現在を、未来を考へるがごとく事あり
四月末より夏まで未来のこのころもど
ない暗示的情緒に陥らざるを得なく
なつた。人の舌に生ずるくれば何人
か自然を愛さんや、この自然に注ぐ
私は遂にテーラの診察をうけて、す
べ健康に現任の私には、自然と共に
生きたい望である。又自然に親し
受することが自分の心を平穏にし、寂
しい心を慰めてくれる。私にとつて
自然は唯一の慰勞物であり不可思
議な魂を打込んでくれる。色々悩
み苦しむことは苦しい。しかし思ふ
ことある故に私は生きた甲斐を感じ、
だれと違ふこともなく人間の理想とも
苦しみも人間にのみあるものだ。

みんなの医局会議

常盤燈のシャウカステンに書いて
がしめる。掲げられたレントゲン写
真の白と黒のコントラストが浮び出
る。見つけるまで、暗。

「これはここに病変があるが云つて
「右の上葉です」
「成程とやるとしたら骨は何本切除
する？」
「ヒズです」
「手術方式は？」
「前接式、理由は新層で前の支に空
洞があるからです」

これは鶴本病院で五月から始めた
医局会の一場面である。等閑してい
るのは副院長、着るものは看護婦で
ある。真剣な瞳と上気した顔が白衣
に映えて美しい。医局会というものは
毎週金曜日に行われる患者の新入院
患者に対する治療方針検討の会であ
る。入院患者に対する治療方針は
医局だけが理解していれば良いとい
うものでは無い、直接看護にあたる

看護婦がそれをよく理解していたら
それはどんなに素晴らしいことだろう
か。そしてまたレントゲン検査部の
人、健康、民生の請求や選定後の古
誌にあたる事務の人たちまでそれを
理解して仕事にあたることででき
うそれはどんなに素晴らしいことだろ
うか。有機的な生命体として病院全
体のひびひりひりが生きた結核対策
室になつて働いているということが
はつきりした直覺の上に行われると
いうことは何とすばらしいことだろ
うか。そういう目的をもつて医局会
を患者だけのものにしてはゆきかけ
が行われた。それは医局会ばかりで
なく、回診の時にも行われた。抄読会
といつて各病が本を讀んで勉強して
来たことを発表しあう会も行われた
諸君も何回も行われた。こうした
にふまぬゆきかけとゆきかけが
る人たちの同僚がこうした実を結
んだのである。

医事係 兒島 美都子

学

病的良心のために、人間の
同情というように、小で
な感情は、のりこえなければなら
ないでしよう。私はそれは思
いません。科学というものが、
全人間的なものと成り得るべきで
り、人間の良心にもとる如何なる
学術的良心というものもある
はずはありません。科学的には
正しいが、人間としては正しい
というような実験は、科学者とし
ても恥しい実験なのです

松田 道雄

五月の活動状況

胸部成形術	二十四名
胸区域切除術	一名
気管支肺癌摘出術	一名
胃下垂手術	五名
その他	五名
入院待機患者	三十名

筆 山羊と私

随

こじまとしひろ



僕が最初に山羊とかかわりを持ったのは戦争中だった。動物性の食品がひいて欲乏した末に端で、一家の栄養補給を志して山羊を飼うことを思いついた。近所から仔山羊を三十匹の大金で買つて『山羊詳説』という本を買つて飼う方を覚えた。ところがこの仔山羊は買つたときから既に栄養不良だった。『山羊詳説』によると健康なザイモン種の山羊は耳の先が美しい法螺色をしていなければならないのに僕の山羊は汚濁色をおびていた。先に虎の巻を読んだから山羊を飼えばよかつたと思ひしがつたが仕方がない。虎の巻には「山羊は粗食に耐える動物だが、時に下痢をおこして死ぬ

知識が浅くて大いに役に立った。最初は海軍に召集されて、半年余りで病氣になり上級訪の海軍病院に送られたときだった。

山羊を飼つた経験があるので、当時病院に二頭いた山羊の番兵を命ぜられた。これは極めて繁雜な作業で皆がモツコがききやつているとき山羊番兵は山羊を引つづつて山へ行き木へつないでねそべつていればよかった。丁度夏のさかりで、山にはアズグが一鉢熟れていた。

山の新鮮な生ウリも時には失敗できた。僕は終日、重くしい軍隊の空気が辟放されて、草いきれの中であつた。この時僕は、一等水兵だったので山羊一本とよばれた。毎日良い気になつて山羊を放牧していたらこの山羊もまた食べすぎて下痢をはじめたので、僕は太いにあわてた。殺してもしたら山羊番兵は懲罰ものである。下痢はいつまでも止まらないで毎日良くなるでいるうち、隣郷で養で疳疔を許され、はつとしで、病氣を出た。僕のとて山羊番



兵はいい災難であつた。これが終戦十日前の八月五日である。次に役立ったのは新婚旅行の時である。旅行をしたのが金が足りないのでそれにたた温泉へ行つただけで温泉が足りないというので、調査旅行を新婚旅行に兼ねるということになった。僕の方は役所の定額調査の下打合せに長野県へ出張させてもらい美都子の方は当時、嵯峨園の農場に勤めていたのでそこから山羊飼育農家の実態調査に出張させてもらった。つまり富貴で新婚旅行をする計画を立てたわけである。両方の仕事を手分けして二人でやつたから出張期間のうちに仕事をすませて、なお一日ばかり嵯峨の温泉で新婚旅行の気分を味わうこともできた。嵯峨山麓に展開している広大な南相模地に点在する南相模家、原田の姿などどこにいた針葉樹林、仔山羊にまじわれて草をたべている放牧の山羊、それらの景観を忘れることができない。

美都子の方も根本病院で山羊の知識を役立てる機会があった。山羊乳の集配所を経営しているNさんという人が山羊乳を生乳のかわりに配食して呉れて、当時給食を担当していた彼女のごほうびのようにやってきました。彼女はある日、山羊調査におぼえたあやゆゑ山羊知識を動員して質問しかけたので、山羊について何も知らないNさんは、そればかりをなにしてあまりうるさく言つてゐた。

「このまゝ来に構つて山羊と何のかかりもなつてゐる」と、あの、人馬鹿にしたような鉄割れ目の目が、なつかしくなる。高原の強い光の中に、まぶさしたく、輝いて走つてゆく山羊を見るのは何年先のことだろうと考へたりしながら聞いているのである。山羊は千とちがつて、結核に侵されぬという特性をもつてゐる。結核に侵される様子が、なぜ結核に侵されない山羊と因縁があるのだらうな」といふ二つも考へたりしてゐる。

詩 私は生きて行く

久納 千枝子

子供たちの父親が、面を出しながら
棄も効かず、手術もせず
療養へも入らず

子供たちの傍にいて、薬を運びせかけ
或日、子供たちの一人が

突然、結核性脳膜炎におそわれ

母の手からもぎとられてしまい

それからまた、残つたもう一人の子供も

母が、口からはらわたを吐くような思ひには

かかわりなく、冷くなつていつてしまふ。

そして、やがて子供たちの父も

結核菌に侵しはまれつくして消えて行く

そんな、氣も遠くなるような暗い途が

私の前にデンと生つていようと

それが私に与えられた人生なのだ

と、私は決めて、死ぬ日まで

仕方がない、私は生きて行くこと

生きたゆく間には、時には心の凝まるような

でも、手に捉えることの出来ない、ただ

眺めてすぎるだけの倅にでも

もしかしたら遺えるかも知れないから――。

自己をみつめて

堀田 春美

ある日のこと、最の山路を歩いていて

夕日がさして波うつ自然が美しい。

私の苦悩はいつしか私の理性をとりもどす

今迄考へて来た。人生について、真理について、

そして、安息の地を尋ねてさまよい歩く

しかしやがて孤獨であつた。

あれだけ信じていた人も、あれだけ愛していた人も

結局は遠くかけ離れた人だつた。

私は私としての一爪の道がある筈だ

しかし何故こんなにも当惑するのだらう

夕陽は静かにせまり、夜が身は静かに包む。

ああ、夕暮を待つてくれ、眼を閉じてなにも思案する

唯漠として何も浮ばず、一片の雲さえ唯曇し

ああ、私の愛するものは自然と孤獨の友だ。

私は刻々と近づく前途にいいきれぬ煩悶と恐怖を抱き

ゴウ／＼ものすゝま飛行機の音

恐怖はなおも私をおそつた。

しかし私はそこに屹然として立止り

反抗的に流れ行く黒雲をにらみつけた

そして、雲暗い裏町の中を再び歩き出した

一歩一歩、小みしめながら

ベートオヴェン

—1770~1827—

昭和27年3月 成彰

渋谷 修

・お前はもう自分の為の人
であることは許されてはい
ないだ人民の為にのみ——
——ハニー ベートオヴェン

当然論者としての行かぬは
ないこの芸術の境地は、い
いしれぬ肉体的苦痛へ彼は後
半まできこえなくなつたの
重荷に、幾度も絶望しながら
もあのヒューマニズム精神と
積極的なロマンチズムに充ち
た輝かしい数々の作品を遺し

たのです。

その、彼として、
この輝やかしい作品
を書かされたあの時
代とは、破りありま
うとは、どんなもの
であつたのだろうか。

X X

十八世紀後半から
十九世紀初めのドイツ
は、次第に政治と
商業振興の二重原因
に、小市民、農民は、抑し
しがれ動るところで、卑劣な
イデオロギストと配属した人殺
性が支配していた時代であつ
たのです。そして、イギリス
の産業革命、フランスのフ
ランス革命、といった経済政治
革命を、ドイツでは、なしと
げ得なかつたのでした。

ドイツでの「よりよき時代
に対する期待」は、ヘーゲル
ゲーテ、ベートオヴェン、そ
の後の人々が、最もすぐれた

最も強い民衆の知識として登
場した。これによつて、優れた
ドイツ民族芸術文化は、もつ
たこしはのびます。

X X

ベートオヴェンは、一七七
〇年ドイツのボンに生れ、一
八〇四年時代からは、英雄的
精神の時期として、彼の名作
が創られていきます。「英雄」
第三交響曲（作品五五、一八
〇四年）「熱情」ピアノ・ソ
ナタ（作品五七、一八〇四年）
クロイツル・ソナタ（ヴァイ
オリン・作品四七、一八〇四年）
——そしてベートオヴェン
の記念碑的な作品、第五交響
曲（作品六七、一八〇五年）
を創造しました。バルリオー
ス（フランス作曲家）は、
「このようならばらしい音楽
は、そう滅多に書かれるもの
ではない」といつております。
「田舎」交響曲（作品六八）
更に、オセ、第八交響曲に反

して彼の音楽は、ますます、
ドイツ民族芸術の絶頂へ一変
を遂げていきます。

——そして、彼の市民的な
モテーフによる主題は、歡喜
へと導かれて、あの終曲の合
唱で、あの広大な歓喜をもつ
た大交響曲（作品一二五、
一八一七—一八二七）にそ
の頂点を現しております。

また、彼のピアノ曲、絃索四
重奏曲は彼の数々の不朽の名作
をうづめるものが多く、彼の
激情の浮沈をものがたつていま
す。

X X

一八二七年彼は、ウィーンで
永眠しています。それは、日本
流に教えて、五十八才でした。

レコードコンサート

—ベートオヴェンの作品—
—1770~1827—

於 織本病院

日時 六月二十日午後四時

- 1 「情熱」 ピアノ・ソナタ OP57
- 2 クロイツル・ソナタ OP47
- 3 交響曲「運命」 OP67

解説 日本現代音楽協会
渋谷 修

僕らも、ごめんだ！



しま・ひろし

大空の雄姿
にうつつ
僕の知つて
る戦場の友人

ようやくおつた勤務の
あいまに自分の仕事をしよう
かと思つて今度は病氣だ 君

のように、また僕のように社
会の具體的は動き自体をとり
えて仕事の対象にしようと思
つていたものにとつて、病床

にとどめられることは致命
的だ。

軍隊に行つて君は予備中尉
だつたし、僕は一等水兵だつ
たので軍隊生活におけるあら
ゆる條件はあつたが、

それが今の病氣の原因だつた
ということには変りがない。

戦争は中尉にも、一等兵にも
同じ精神的肉体的苦勞を結局
もたらした。

君は知つてゐるが、僕も此
れも予備中尉でゐる。A
は肺炎を患つたといつたが今

僕は兵隊にゆがなければ、
そして復員後のあつた食
糧事情がなかつたら、つまり

戦争がなかつたら結核にはな
らなかつたと思つ、少くとも
カリエスにならなかつたこと

はたしかだ。君もやはりそう
だろう。

戦争はもうごめんだ。僕は
平和の場を愛する。けれど、
今、僕にできることは何だろ
う。ただ、ねいて叫ぶだけ
だ。小さな聲でくりかえし叫
ぶだけだ。

の叫びは、小さく、こぼれがら
い。しかし、二百万人の戦友の
叫びは強大な風が吹く。さ
らに八千万人の叫びは原チ
カよりも強く力がある。

それとて、僕の心は温まり、
の精神は奮起づけられる。
声はひろがる。声は大きくな
る。邪悪な意見に対する怒はす
べてのへたてを破つて、人を
すびつけるだろう。

一筆啓上

田島文市氏の巻

私は小さい時からお巡り
さんば怖くて枕にも寄れな
い人だと思つていた。然し

四十年前にスマイルな体軀に
コンボリーをさげて、朝の日
も厚い日も雨の日に通つ

て来るお巡りさんがいた。そ
れが現在、「文チヤン」とい
ふ女ながら愛称をわけてい

る田島さんであつた。話して
みると所いどころかやんこ
しく人なつて、特微とし

ては少しなりだが、やんこ
やんこ、物言ひにききに言

はオミミミミミミミミミミ
ミミミミミミミミミミミ
ミミミミミミミミミミミ

ミミミミミミミミミミミミ
ミミミミミミミミミミミミ
ミミミミミミミミミミミミ

ミミミミミミミミミミミミ
ミミミミミミミミミミミミ
ミミミミミミミミミミミミ

君の太分合がよいといふ
手紙をみた。僕もやはり太分
合いと思つて、小こ
う太分よいしなごうと女々
つちい表題で、お互に語り合
わなくてはならぬといふ何し
い情ないことだろうと考へ
たのだ。君が病床についてか
ら三年、僕は二年だ。僕たち
の年々この新聞はどんなに
大切だ。一日一日だろうが、
僕達のように学生時代は軍
教に追われ、社会へ出るはず
や軍隊へ送り出されたりは
二十代り最も大切な時期を
白くまわっている。

